

加西市総合計画の見直しの論点

1 総合計画の役割・意義

自治体の最上位計画に位置付けられる総合計画は、自治体経営の基本的なガイドラインといえます。行政だけでなく地域社会を構成する様々な主体が、めざすまちの姿や将来像の実現に向けて、行政、市民、企業、NPO等が役割分担・連携協力しての取組みの考え方や方針を明らかにするものです。

また、市の予算編成や国の補助金等の支援を受ける際にも、総合計画の各施策での位置づけや記載が、大切になってきます。

2 今回見直しの大枠の方向

総合計画は、「基本構想(10年間)」、「基本計画(5年間)」及び毎年見直しする「実施計画(3年間)」で構成されていますが、このうち今回は、基本計画の前期計画の期間5年の終了に伴う見直しのため、全体的な体系・構成(5つの政策と30施策)は継続させ、策定後の社会経済状況の変化や前期計画の進捗に応じ、必要な部分について修正・追加するものとするほか、計画の概要をまとめた章を設け見やすくします。

総合計画の見直しに先行して、既に27年度前半に地域創生戦略を策定しているので、戦略会議等で得られた意見等の反映を中心にした後期5か年の基本計画素案を基に、さらにこの審議会での議論やパブコメからの意見・提案を加えるものとします。

なお、庁内では政策会議(市長以下幹部職員で構成)での検討を中心に、各部の取組みの集約を図ります。

3 後期計画策定の視点(ポイント)

5万人都市再生に向けて、取組みをさらに加速、深化させるにあたって、考慮すべき点、着眼点については、次のものが挙げられます。

(1) 加西市地域創生戦略の反映と推進

地域創生戦略に盛り込まれた取組みを、総合計画に位置付けます。

(2) 前期基本計画の進捗状況による施策の調整

前期基本計画の評価・検証に基づき、進捗の調整、注力すべき施策について修正を加えることにより、時代トレンドや新たな住民ニーズを勘案して、取組みを推進します。

前期期間で完了した取組みは、記載から除くとともに追加・拡充等の取組みについて加筆修正するものとします。

(3) めざす都市像の提示

総合計画の基本構想において、めざすまちの将来像(基本目標)として「加西の元気力～加西の良さを活かした元気力の追求～」を掲げていますが、さらに、めざす都市像のイメージをわかり易く一言で言い表すキャッチフレーズを加えることにします。

地域創生戦略のサブタイトルとした「子育てにほどよい「便利な田舎」かさい」から、生活や仕事の全体を含め「暮らし」という表現に変更して、後期基本計画に組み入れます。

＜めざす都市像＞（案）

暮らしにほどよい「便利な田舎」かさい

(4) 重点プロジェクトの設定

総合計画は、各分野の施策全般にわたる網羅的なものとなりますが、後期基本計画では、特に必要性が高く集中的・分野横断的な施策群を「重点プロジェクト」として整理のうえ位置づけ、残る5年の取組みをわかりやすく提示するものとします。

＜重点プロジェクト整理例＞

- ① 地域ぐるみの子育て応援プロジェクト
のびのびと子どもを育てられる環境づくり 等
- ② 若者・女性等の定住促進プロジェクト
若者や女性が夢を持って活躍できるまちづくり 等
- ③ 次代を担う産業創出プロジェクト
加西を支える次世代産業を創出するまちづくり 等
- ④ 高齢者等が活躍できる社会推進プロジェクト
高齢者など一人ひとりが生きがいを感じ活躍する社会づくり 等
- ⑤ 暮らしやすいまちづくり推進プロジェクト
教育、住環境、交通の利便性を高めた暮らしやすいまちづくり 等
- ⑥ シビックプライド醸成プロジェクト
子どもや若い世代を中心として加西に誇りと愛着を持てる環境づくり

＜参考＞ 地域創生戦略会議における議論・課題

- 出生率の向上【自然増】
加西市は三世代同居率が県内で高く(4位)、住宅も広いのにも関わらず、25～34歳女性の未婚率が高く(25位)、合計特殊出生率も極端に低い(29位)ことの解消をめざす。
- 市内事業所の従業者等の移住促進【社会増】
市内の雇用数は20年前とほぼ同水準が維持されているが、従業者のうち市内居住者は約4千人減少しており、市外からの約4割の従業者(約9,700人)の市内移住をめざす
- シビックプライド(まちへの愛着・誇り)の醸成【地域の魅力づくりと発信】
加西市には「何もない」ことはないので、自分たちのまちをより良い場所にするために、自分自身が関わっているという、当事者意識に基づく自負心を持つことをめざす。